

地域づくりを企画するためのアイデアB秘☺K



ワールデン物語

～緑とやさしさを育む
多文化共生コミュニティガーデン～

もくじ Page

ワールデン:ワールド・スマイル・ガーデンの通称。この物語の舞台となる刈谷市一つ木のコミュニティガーデン(→P.57)です。

第1章 ワールデンうまれる

4

STEP1
目的設定

STEP2
企画立案

STEP3
連携協働

STEP4
基盤整備

物語の始まりは
2012年
5

2013年
「コミュニティ
ガーデン」を
刈谷でやろう！
7

まずは自治会！
足を運び、
伝え続け、
語り合う！
9

2014年～
人、場所、情報、資金、
みんなの知恵と
チカラを
結集する！
11

はじめに

- もくじ **1**
- 本書のねらい **3**

トピック

- ワールデン' s ギャラリー **13**
- ワールデン広場組の力作 **37**
- クリスマス会の様子 **44**
- ワールデン' s キッチン **51**



第2章 ワールデンみんなで育てる

14

第3章 未来につなぐ

38

STEP5 内容設計



STEP6 発展継続



枠組みとステップはあるけれど、中身はみんなで1から考える！

15

ワールデン10のイイね！

- 1 協働でうまれる力
- 2 特技とリソースを持ち寄る
- 3 みんなが主役！ 主体的に参加する
- 4 とにかく楽しい！ひたすら楽しい！
- 5 「ゆるさ」って大事
- 6 農作業は地域づくりに向いている！
- 7 非日常じゃなく「日常」
- 8 成果は「じゅわじゅわ」あらわれる
- 9 多様性は豊かさ、多様性は強さ
- 10 信じれば叶う！あきらめたらおしまい

17
19
21
23
25
27
29
31
33
35

米作りにチャレンジ、組織も立ち上げ、
ただ今
発展進行中！

39

10年後の
ワールデン
こうしたい！
夢

45

資料編

- | | |
|----------------|----|
| 数字で見るワールデン | 53 |
| 2016年度のワールデン | 55 |
| コミュニティカーテンの可能性 | 57 |
| 妄想中！ワールデン | 58 |
| 刈谷市一ツ木町の紹介 | 59 |
| プロジェクトの協力者 | 61 |



本書のねらい



1990年の入管法改正を契機として、南米諸国からの日系人をはじめ、多くの外国人が来日し、長期間滞在するようになったことで、社会状況や地域ニーズが変化し、「多文化共生」が各地域において、大きな課題のひとつとなっていました。各地の国際交流協会でも様々な多文化共生事業を行っていますが、「外国人の参加者がなかなか増えない」「いつも同じ顔ぶれしか集まらない」などの共通の悩みを抱えています。真の「多文化共生」を推進するためには、「地域づくり」の視点をもち、多様な人々を巻き込む仕掛けが求められているのです。

そうしたことを踏まえ、当協会では2013年から刈谷市一ツ木地区の皆さんと「コミュニティガーデン」の取り組みを多文化共事業として進めてきました。いろいろな方たちに助けていただきながら、やったことのない野菜や米作りを通して新たな地域づくりにチャレンジしたのです。この「ワールド・スマイル・ガーデン（略称：ワールデン）プロジェクト」は、地域のことについて詳しくない外国人も、そしておとなも子どもも、参加しやすい「ガーデン作り」に年間を通して取り組む中で、気軽に地域づくりに関わっていただけると考えています。まだまだ課題もあり、道半ばという段階ですが、これまでの4年間の活動をふりかえり、プロセスをまとめたものが本書です。

「コミュニティガーデン」という手法はあくまで1つのモデルであり、そこにこだわる必要はありません。地域にあった手法を選ぶことが大切です。ただ、このプロジェクトの「プロセス」や、その中で見えてきた、いくつかの「ポイント」は、どんな企画を進める上でも役に立つのではないかと思っています。特に、第2章にまとめた「ワールデン10のいいね！」は、わたしたちが改めて実感した「大切なこと」です。多文化共生や地域づくりに関わる多くの方たちの参考にしていただけたらともうれしいです。また、本書全体を通して、わたしたちが過ごした楽しい時間を共有していただき、いろいろな地域で新しいプロジェクトが誕生するきっかけになれば、さらにうれしいです。

最後に、このプロジェクトと一緒に進めていただいた愛知県刈谷市一ツ木地区のみなさん、刈谷市、(特活) NIED・国際理解教育センター、(一財)自治体国際化協会を始め、ご協力いただいた多くの方たちに心からお礼を申し上げます。

2017年2月

公益財団法人 愛知県国際交流協会



第1章 ワールデンうまれる

STEP1 目的設定 「達成したいこと、めざすものは何か」

STEP2 企画立案 「目的達成のため何をするのか、どこですか」

STEP3 連携協働 「誰と一緒にするのか、どうやって出会うのか」

STEP4 基盤整備 「プロジェクトを進める基盤はどう作るのか」

STEP1 目的設定

「達成したいこと、めざすものは何か」

- 何のための「国際交流」？ 何のための「多文化共生」？
- この事業を通して何がどうなるといい？
- この事業を通してどんな課題が解決するといい？

物語の始まりは2012年！



紛争地域で敵味方だった人々のわだかまりを溶かした「コミュニティガーデン」

刈谷市のワールド・スマイル・ガーデン。
それは、1冊の本との出会いから始まりました。



『平和の種をまく ボスニアの少女エミナ』
大塚敦子著 岩崎書店

1992年に始まったボスニア戦争終結後も
ボスニア・ヘルツェゴビナに住むボスニアク(ムスリム人)とセルビア人の
間に残る憎しみとわだかまり。

それをなんとかしようと、アメリカのNGOが、
ともに畑を耕し野菜を育てる
「コミュニティガーデンプロジェクト」を立ち上げました。

そこで知り合ったボスニアク(ムスリム人)のエミナとセルビア人のナダ。
別々の居住区に住んでいた二人は、
コミュニティガーデンで知り合い、大の仲良しになります。

二人は、コミュニティガーデンがなかつたら
出会うことはなかつたでしょう。

ある時、
「もう二度と戦争が起きないためにはどうしたらいいと思う？」
という問いかけにエミナは答えます。

「ナダと戦うなんて考えられない。みんな友達になればいいんだよ。」



国際交流、多文化共生はなんのため？

地域に住む外国人の数が増え、いろいろなところで
国際交流のイベントや多文化共生の講座などが開催され、
「外国人」に対する人々の意識は少しづつ変わっているはずですが、
それが地域や社会に、目に見える形で現れてこない
「もどかしさ」を感じたことはないでしょうか？

以前、外国人住民が集住する団地に住む方から言われました。

「こうした講座は重要だと思う。
国際交流協会が一生懸命仕事をしてくれていることもわかる。
でも、私が住んでいる団地は20年前とまったく変わっていないよ。」

いくら講座を開催しても、何度イベントをやったとしても、
外国人住民と日本人住民との関係性がより良くなり、互いに
「確かに地域が暮らしやすくなった」と実感できるものにつながらないとしたら、
何のための講座やイベントなのでしょう。

多文化共生に関心のある人もない人も、
地域づくりに関わっている人も自分には関係ないと思っている人も、
みんなで一緒に暮らしやすい地域を創っていくこと！

そのために何をしたらよいのだろう。

悩んでいるときに出会ったのが
「コミュニティガーデン」だったのです。



STEP2 企画立案

「目的達成のために何をするのか、どこでするのか」

- ✓ 目的を達成するためのツールには何がある？
- ✓ 目的を達成するため、具体的に何をどこでする？
- ✓ それは地域のニーズに合う？

2013年 「コミュニティガーデン」を刈谷でやろう！



「コミュニティガーデン」というツールの可能性

「何をめざすのか」が明確になったら、
地域の状況やニーズに合わせてツールや内容を考えるのが本来の流れですが、
ワールデンプロジェクトの場合は、
「コミュニティガーデンを通して多文化共生の地域づくりを進める」ということで
「コミュニティガーデン」というツールが最初に決まっていました。

ボスニアだけではなく、いろいろな場所で取り組まれているコミュニティガーデンが、
地域における様々な良い変化を創り出していることを知り、
私たちの目的を達成するツールはこれだ！と思えました。

「国際交流」とか「多文化共生」と高らかに声をあげるのではなく、
みんなで何かをやりながら、知らないうちに暮らしやすい地域になっている…
そんな活動に「野菜づくり」はぴったりです。

問題は、それを「どこで」やるか。



出典：『コミュニティガーデナー養成講座テキスト』
著作団体：NPO法人NPO birth、NPO法人GreenWorks



ツール、ニーズ、条件にぴったりの場所、刈谷市一ツ木との出会い

最終的にコミュニティガーデンプロジェクトの実施場所を
刈谷市一ツ木に決定したのは、次のような理由からでした。

- 刈谷市は多文化共生に力を入れていて、NIED・国際理解教育センターと協働で国際化・多文化共生推進計画を実施しており、地域づくりのノウハウを持っていたと同時に、担当者もプロジェクトの提案に前向きだった。
- 刈谷市は多文化共生に関するアンケートを実施しており、地域の現状やニーズの把握ができていた。
- 刈谷市やNIED・国際理解教育センターと(公財)愛知県国際交流協会は、普段から顔の見える関係が構築できていた。
- 市内でも外国人住民が最も多く住む一ツ木地区は、多文化共生事業のモデル地域となっていた。
- 一ツ木地区には地域のつながりが残り、コミュニティガーデンを実施するにも適した規模だった。

こうして刈谷市の中でも最も外国人住民が多く住む一ツ木地区に、
コミュニティガーデンを設置することを目指すことにしました。

早速、刈谷市、NIED・国際理解教育センター、愛知県国際交流協会の3者で
プロジェクトの目的を改めて確認共有し、
プロジェクトの大枠作りへと進むことになりました。



ステップ1 みんなで考える

1. 夢を語り合おう
2. 場所をよく調べよう
3. コンセプトと名前を決めよう
4. ガーデンデザインを考えよう
5. 植物を選ぼう

STEP3 連携協働

「誰と一緒にするのか、どうやって出会うのか」

- 地域にはどんな人々がいる？団体がある？
- プロジェクトに関わってほしい人は誰？
- 関わってほしい人はどうやって集める？出会う？

まずは自治会！ 足を運び、伝え続け、語り合う！



地域の要！一ツ木自治会と地域団体への説明会から始める

ワールデンプロジェクトの主役は地域住民！...とはいって、
どうやって協力を求めたらよいのでしょうか。

まずはともあれ「ツテのあるところから」ということで、
一ツ木の自治会、婦人会、こども会などに
「コミュニティガーデンと一緒にやりませんか」と呼びかけたのは2013年のこと。

すでに刈谷市国際化・多文化共生推進計画のモデル事業が、
一ツ木で進められていたものの、「コミュニティガーデン」という新たな活動について、
住民のみなさんの理解を得ることは、そう容易なことではありませんでした。
まずはこれから一緒に始めたいと思っている
「コミュニティガーデンプロジェクト」についての説明会を開催することにしました。

刈谷市と自治会との日頃の関係から、
呼びかけにはまずまずの数の住民の方に集まっていただけのもの、
「いったい今度は何が始まるの？」
「よくわからんけど、呼ばれたからとりあえず来てみた」
と、会場内には「はてなマーク」がいくつも飛びかっていました。



すでに関係性のできている刈谷市やNIED・国際理解教育センターとは違い、
一ツ木住民の方とはこれが初顔合わせとなる愛知県国際交流協会です。

愛知県国際交流協会の担当者は「まずは仲良くなりたい！」と、
一ツ木で実施される多文化共生イベントにできるだけ参加し、
コミュニケーションをとるようにしました。
そこで少しずつコミュニティガーデンの趣旨を伝えたり、
ちらしを作り、参加のお誘いをしたりしました。



勉強会や検討会を通して少しずつ高まる関心と深まる関係性

次に、「コミュニティガーデン」について知り考えるための会を企画しました。
「なんだか楽しそうね」「子どもたちの教育の場にもなりそうだね」
「最近は隣近所のことがわからなくなってるから人が集まるのはいいんじゃない？」
少しずつ少しずつ興味関心がわいてきます。
そして次第に「どんなガーデンにする?」と、住民の皆さんも私たちも
夢を語るのが楽しくなってきました。

でも、肝心な畠が決まらないと、検討会を越えた現実的な話には進めません。
勉強会や検討会と並行して土地探しにも奔走しましたが、
いくつか候補はあがるもの、見に行くと不便だったり、狭かったり、
規制があったり、費用がかかったり…なかなか条件に合う土地が見つかりません。

その繰り返しに「やっぱり無理なんじゃないの」とあきらめムードが広がり、
住民のモチベーションもやや下がり気味。どうしたものかと思っている中、
「もしかしたら、土地を使わせてもらえるかもしれない！」
一ツ木自治会長から連絡が入ったのは、
年が明けた2014年3月のことでした。



STEP 4

基盤整備

「プロジェクトを進める基盤はどう作るのか」

- プロジェクトを進める上で必要なものは？
- 今ある資源（ハード、ソフト、人的リソース）は？
- あるものをどう活かす？ ないものはどう補う？

2014年～ 人、場所、情報、資金、みんなの知恵とチカラを結集する



念願の畠が見つかり、いよいよプロジェクト本格始動！
二次元から三次元へ！

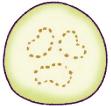
その土地は約500 m²。
広すぎず狭すぎず、ちょうどいい広さで、土もよく、駅から近く、用水路もあって、幼稚園や小学校の通学路にもなっているところ。

地主さんはこのプロジェクトの趣旨に賛同してくださり、「活用していただけるのなら」とご好意で貸していただけましたことになりました。

理想どおりの土地が見つかり、俄然モチベーションアップ。
「名前を決めよう！」の声があがります。
みんなでアイデアを出し合い投票した結果、
ガーデンの名前は「ワールド・スマイル・ガーデン（通称：ワールデン）」に決まりました。

また、専門家のアドバイスもいただきながら、
畠エリア、花エリア、広場エリアという3つのエリアに分けて
整備することも決まりました。





必要なものは、みんなの強みと智恵を結集して整える！

事業を進めていくためには、畑以外に、人、モノ、場所、情報、お金など、必要なものがたくさんあります。ワールデンプロジェクトの成功には、多くの住民の方の参加が必須ですし、特に多様な国籍の人に集まつてもらうためには、広報に工夫が必要です。いろいろなことを決めていくためには会議も不可欠で、そのための場所が必要。畑を作るためには物資が必要。それらを確保するには「資金」が課題となります。プロジェクト立ち上げに必要な資金については、刈谷市と愛知県国際交流協会が自治体国際化協会から助成金をいただくなど何とか予算を確保しましたが、それも永遠にあるものではありません。

迅速な行動力や人集めのくちコミやネットワークの協力を得ることに関しては市民のチカラに勝るものはありません。

事務的作業や広報や市内の状況把握は刈谷市が得意。

住民主体の参加型会議のプロセスデザインや記録の積み上げは、NIED・国際理解教育センターがお手のもの。

多文化共生に関する経験値や多言語による情報発信については、愛知県国際交流協会が頑張ります。

予算が確保されているうちになるべく設備投資をし、大きな農具はメンバーの持ち物をシェアさせてもらい、苗は個人で育てているものの余剰分を融通しあい、2015年から始めた田んぼへの寄付を募り、寄付者に「ワールデン米」を進呈することも始めました。

いつまでも行政の予算を確保できるわけではないこと、最終的には住民主体の自立した活動を目指すことを共有しないものねだりではなく、それぞれの特技や技術や強みを持ち寄り、なるべくローコスト、ローメンテナンスを合い言葉に、知恵を出し合い、助成金にもチャレンジし、今も現在進行形です。



ワールデン's ギャラリー

→ 刈谷市の『国際化・多文化共生』かわら版（ワールデン特集号）多言語のうちタガログ語版です。

→ どんなガーデンにしたらよいか話し合った時の4つのグループのアイデアです。

